

中山間地域における

デジタル活用の可能性



八幡平市
Hachimantai City

八幡平ドラゴンアイ

2022年3月15日 デジタル田園都市国家構想実現会議

人口減に起因する 社会課題

我が国の総人口は、2008年をピークに縮退局面に入っており、今後80年で100年前の人口水準になるとの予測もされている。首都圏を中心とした、都市部への過度な人口集中によって、地方の過疎地は人口減に拍車がかかっている。

岩手県は医師偏在指標において全国最下位で東京都の半分以下となっており、地域医療の維持が厳しさを増している。平成の大合併によって市町村の区割りは大きくなっているものの、旧自治体単位で見れば無医村となっている事例も珍しくない。若年層が都市部へと流出した結果、独居高齢者も増えて日々の安否確認といった見守りにも支障を来している。

工業などの労働集約型産業は、もはや地方に進出しても労働者の確保の見通しも立たず、農業や観光など地域を長く支えてきた産業も担い手不足に悩まされている。地方は社会のありとあらゆるシーンにおいて、人口減による影響に直面しているのである。



人口水準が100年前に迫る

60000

50000

40000

30000

20000

10000

0



1960年

53,805人



2020年

24,023人

産業構造の転換によって、工業だけでなく農業や観光の面においても世界水準の産業を多数抱える地域ではあるものの、60年以上に渡って人口減少は止まらない。

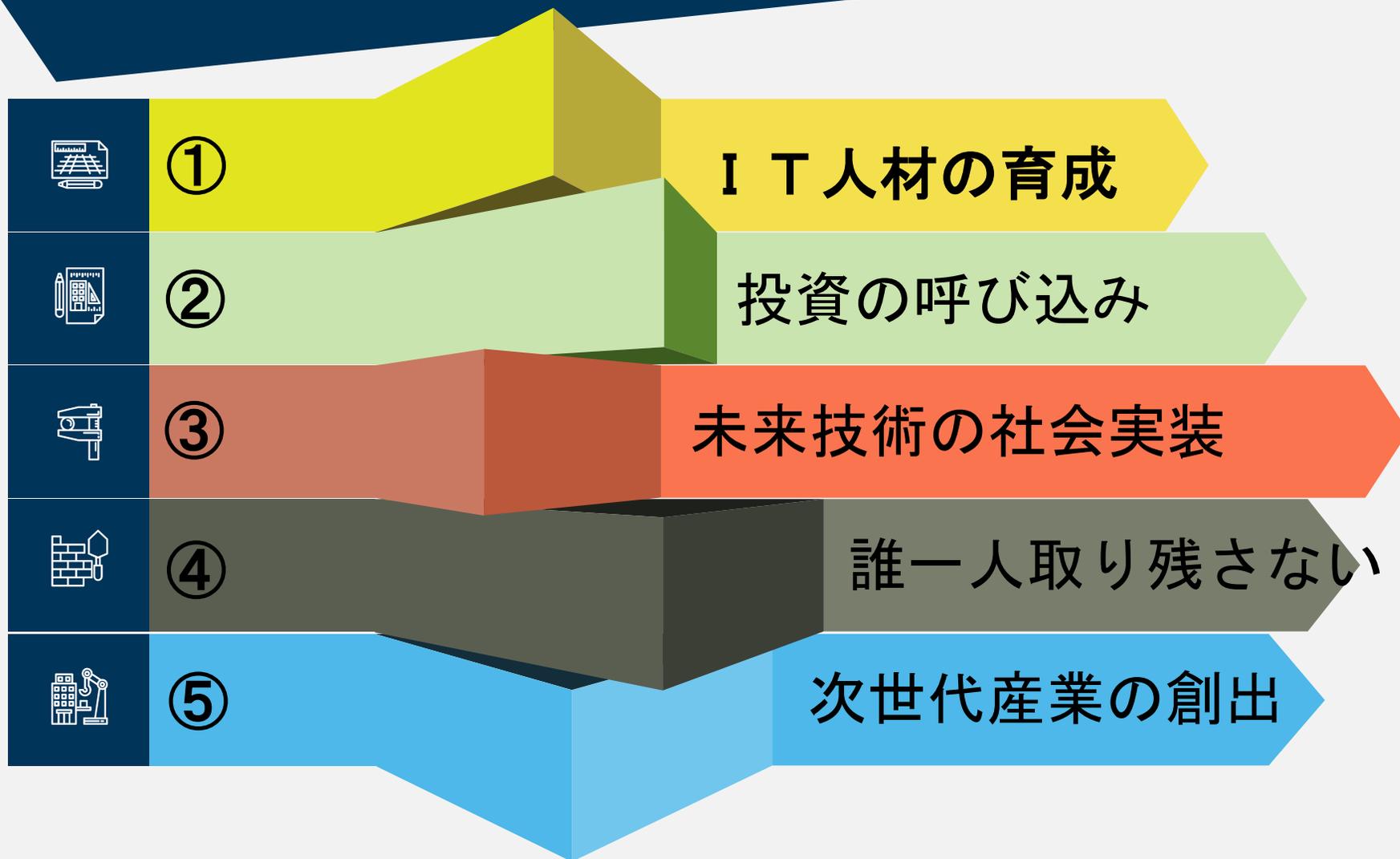
成り行きのまま推移すると、今後10年以内に1920年の水準以下になる可能性が非常に高い。



基本方針

人が減っても地域を持続できる

デジタル活用戦略5つの柱



八幡平市は2015年からIT起業家人材を育て、外部から民間の投資資金を呼び込めるビジネスを創出。未来技術の社会実装によって、誰もが生まれ育った地域に安心して住み続けることができる世界を構築することで、次世代の成長産業創出に力を入れてきた。

中山間地域は、人口が減ることによって様々な社会課題が発生しているが、これを「未来の日本を先取りした姿」と定義づけることによって、新たなビジネスを生み出すフィールドへと転換してきたのである。

変革の源泉は人材



“世界に選ばれる
IT起業家育成エコシステム”
起業志民プロジェクト

あらゆるコミュニティの基盤となるのは、間違いなく人である。八幡平市におけるデジタル戦略もまた、人の育成から始まっている。どこに住んでいようと、自由に働き方を選択できる者を増やす試みとして2015年から「起業志民プロジェクト」はIT起業家の育成に取り組んでいる。

世界中から定員の数十倍もの応募が殺到する”スパルタキャンプ”で育てた人材は、累計300人を超えている。修了生に市内での起業や移住の勧奨など一切していないが、ハワイやサンフランシスコ、マレーシアやフィリピンなどからもスパルタキャンプを契機に八幡平市へと移住する者が増え続けている。

育てたメンバーが次世代の起業を志す者を育てるという起業家育成エコシステムを形成。ITのチカラを使って過疎地を持続可能に変革する源泉となっている。

医療と福祉を ITで持続可能に

地方創生推進交付金Society5.0タイプに令和3年度新規採択された全国5事例の一つ。八幡平市メディテックバレープロジェクトが特徴的な取り組みである。

人口減に悩む中山間地域に安心して住み続けるには、医療と福祉へのアクセス確保が非常に重要な位置を占める。高齢者に独自アプリを導入した市販のスマートウォッチを装着させ、心拍などのバイタルを取得。医師不足で常勤医を確保できなくなった診療所に、遠隔診療を極めて安価に実装した。

この仕組みを家族にも解放することで、都市部や海外など遠く離れた地に住んでいる家族をも見守りのプレイヤーとして参画できる仕組みとして提供。単一のシステムで医療と福祉を人が減っても持続可能に変革。今後の開発では高効率な疾病予測AIも視野に入れている。



人口減で課題を抱えている分野は多岐にわたっている。長年担い手不足を叫ばれている農業もまた、課題が深刻化している状況にある。

農業と観光も 人口減で課題を抱える





農業を IoTで 再生する

八幡平市には1966年に発電を開始した日本初の商業用地熱発電所である松川地熱発電所に加え、運転中が1カ所、工事中が1カ所、調査中が1カ所ある地熱エネルギーに恵まれた地域です。この地域資源は、冷害などのリスク分散にもなるハウス栽培の熱源として活用されてきました。

担い手不足で耕作放棄された熱水ハウスをIT企業(株)MOVIMASがIoT農業システムの開発により、バジルなどの水耕栽培で再生。県内初の首都圏からの本社移転事例につながるなど、関連する取り組みも広がりを見せる。現地でのオペレーションにはスパルタキャンプ修了生も関与しており、育成した人材が様々な課題解決に取り組んでいる。



株式会社NEXT REVOLUTION

アクセルゲート合同会社

あぶりしえいと合同会社

HACHIMANTAI
SMART FARM

}} def Inc.

G Gardebrain

DATAPILG

Aqsh

NPO法人
八幡平安心+

課題を逆手に 成長産業を創出

過疎地だから何もできない、という発想から転換するだけで中山間地域には新たな可能性が数多く眠っている。実際に人口が減り、社会基盤の維持に支障を来すというペインと実証のためのフィールドが実際に目の前にあるという環境は、起業家にとって最高の場である。都市部の大企業が会議室の机上で組み立てた空想ではなく、現地・現物・現場に基づいて課題の背景にある 이슈を突き止め、ソリューションを組み上げる。中山間地域だからこそできる、新しい時代の勝ち筋が見えてくる。

人口減という容易には変えることのできないトレンドは、時代の大きな流れを決定づける。この方向性をしっかり捉えることで、過疎地にしかできない、次世代の成長産業を創出することは十分に可能である。



ITで持続する観光

閉鎖したレジャー施設跡地に令和2年、暁ブルワリー八幡平ファクトリー(株)太極舎が進出し、地熱発電所の電力、日本名水百選金沢清水の利用により、オーガニックビールの製造・販売を行っている。

岩手山を望む遊休地に、令和3年、複合型観光施設「ノーザングランデ八幡平」がクレセント(株)により開業。このような地域への投資を契機に、アルベルゴディフーズ・オスピタリタディフーズのように地域文化に誇りを持ち、エリア一体をまるごとホテルとみなす取り組みを(株)八幡平DMOとともに進めている。観光庁補助事業である「既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業」を活用したペンションや飲食店の改修による事業承継も行われ、エリア滞在の快適性を高めつつ、目的地化するアクティビティ、体験予約・宿泊、プロモーションなどのデジタル活用を進め、多様化する観光誘客に対応していく。

2次・3次交通のデジタル化、利便性の向上も課題であることから、MaaS導入のほか、自家用有償運送、電気バス・電気自動車の利用検討も進め、地熱発電による電力活用とデジタル化と連結した交通網の整備を推進していく。





八幡平市
Hachimantai City

日本の未来に
貢献できましたら幸いです。

